

学長選考・監察会議による学長の業務執行状況の検証結果について

○検証の観点

1. 山梨大学の教育研究・経営の最高責任者として優れたリーダーシップを発揮しているか
2. 本学の個性と特色を発揮するための明確なビジョンを示し、それを実現しているか
3. グローバル化社会で活躍できる有為な人材を育成し、世界に発信できる高度な研究を推進しているか
4. 教育研究を通じて、さまざまなニーズに応えつつ社会貢献を推進しているか
5. 構成員の意欲と創意を引き出し、本学の人的資源を最大限に生かしているか

○検証資料等

- ・所信表明書
- ・令和5年度中期目標・中期計画に対する自己点検・評価結果
- ・令和5年度監事監査の結果と評価
- ・面談（令和6年9月18日実施）資料

上記、検証の観点に基づき、検証資料により検証した結果、令和5事業年度に係る業務における注目事項として、

- ・本学の強みを生かした、クリーンエネルギー研究及び神経細胞－グリア細胞研究を加速する拠点施設整備の2事業が、地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業に採択され、更なる地域課題解決や最先端技術の創出・実装を目指して、研究を推進していること
- ・工学部の改組や大学等連携推進法人における連携開設科目の推進など、学生の実践力の拡大に取り組み、学修者本位の教育改革を推進していること
- ・構成員との対話を重視し、各学域や附属病院との意見交換の場を定期的に設けており、また、「学生広報スタッフ」を登用することにより学生自身の成長に繋げながら大学の魅力を発信する仕組みを導入するなど、「教職学協働」により大学改革を推進していること
- ・山梨大学の教育、研究、社会貢献、診療に関する取り組みを地域の人々や報道関係者に広く知ってもらうため、PR展示や報道関係者との意見交換会、ステークホルダーミーティング等を実施し、広報活動を強化すると共に、こういったニーズがあるのか対話の機会を設け、ネットワークの構築に取り組んでいること
- ・文部科学省中央教育審議会大学分科会高等教育の在り方に関する特別部会の臨時

委員として、高等教育の振興に関する重要事項の調査審議等を実施するなど、教育学者として、また、地方大学学長として、情報発信を行い、山梨大学の存在を高めていること

などが挙げられ、大学改革・大学運営に関し、就任後1年という短期間においても着実な成果を上げていることから、令和5年度の学長の業務執行状況は、総合的に見れば良好と判断する。

令和6年9月18日

山梨大学学長選考・監察会議